

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 岩手県 |
|-------|-----|

・学校の概要（平成15年4月末日現在）

|     |            |    |     |      |     |     |
|-----|------------|----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 釜石市立釜石東中学校 |    |     |      |     |     |
| 学年  | 1年         | 2年 | 3年  | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 2          | 2  | 3   | 0    | 7   | 13  |
| 生徒数 | 67         | 79 | 104 | 0    | 240 |     |

・研究の概要

1. 研究主題

|                                  |
|----------------------------------|
| 個に応じたきめ細かな指導の在り方 少人数指導と小中連携を柱として |
|----------------------------------|

2. 内容与方法

(1) 実施学年・教科

|  |
|--|
| <p>少人数指導実施学年 第2学年数学・英語、TT指導 第3学年数学・英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一学級の生徒数が多く、理解の状況に差が出やすい教科であるため。</li> <li>・数学と英語で学力に大きな落ち込みが見られるため</li> </ul> <p>きめ細かな指導の工夫は全教科にわたって行う。</p> |
|--|

(2) 年次ごとの計画

|        |  |
|--------|--|
| 平成14年度 | <p>テーマ 個に応じたきめ細かな指導の在り方 少人数指導と小中連携を柱として</p> <p>仮説 各教科の授業において、評価規準に照らして内容や方法を工夫した指導や援助を行ったり、少人数学級での指導を工夫したりすれば、生徒一人一人を生かし、確かな力を身に付けさせることができるだろう。</p> <p>研究方法・内容</p> <p>(1) 知能検査、NRT、CRTなどの客観的資料に基づく生徒の実態把握と分析</p> <p>(2) 少人数指導（1学級を2分化）による個別指導へのきめ細かな対応</p> <p>(3) 学区内小学校（鶴住居小学校）との実践連携の推進</p> <p>(4) 教科別実態把握と学力向上プランの作成・実践</p> <p>(5) 基礎学力向上への補助的取組（朝読書・基礎学力コンクール等）の推進</p> <p>(6) 開かれた学校づくり...保護者・地域との連携</p> |
| 平成15年度 | <p>テーマ 個に応じたきめ細かな指導の在り方 少人数指導と小中連携を柱として</p> <p>仮説 各教科の授業において、少人数指導などの授業形態の工夫を行ったり、小学校との連携によりスムーズな学習の流れを作ったりするなど、生徒一人一人へのきめ細かな指導を工夫すれば、確かな学力を身に付けさせることができるだろう。</p> <p>研究方法・内容</p> <p>(1) 学習形態の工夫（少人数指導、TT指導等）による個別指導へのきめ細かな対応</p> <p>(2) 学区内小学校との実践連携の推進</p> <p>(3) 一斉授業におけるきめ細かな指導の工夫</p> <p>・自己評価カード、テスト振り返り用紙等の工夫 等</p> <p>(4) 基礎学力向上への補助的取組（朝読書・基礎学力コンクール等）の推進</p> <p>(5) 評価の工夫</p>                       |
| 平成16年度 | <p>テーマ 「確かな学力」を身に付け、それを生かそうとすることの育成を目指して（鶴住居小学校との連携指導をさらに確立するために、研究テーマを一本化する予定）</p> <p>仮説 各教科の授業において、少人数指導などの授業形態の工夫を行ったり、小学校との連携によりスムーズな学習の流れを作るなど、生徒一人一人へのきめ細かな指導を工夫すれば、確かな学力を身に付けさせることができるだろう。</p> <p>研究方法・内容</p> <p>(1) 学習形態の工夫（少人数指導、TT指導等）による個別指導へのきめ細かな対応</p> <p>(2) 学区内小学校との実践連携の推進</p>  |

- (3) 一斉授業におけるきめ細かな指導の工夫
  - ・ 自己評価カード、テスト振り返り用紙等の工夫 等
- (4) 基礎学力向上への補助的取組(朝読書・基礎学力コンクール等)の推進
- (5) 評価の工夫
  - ・ 短いスパンでの評価の積み上げによる習得状況の把握 等
- (6) 研究の検証とまとめ

(3) 研究推進体制

- ・ 研究部(研究主任、各学年研究担当)...拡大の場合は数学・英語の教科主任を含む
- ・ 学力向上フロンティアプロジェクトチーム(校長、教頭、教務主任、研究主任、研究部、学年主任)

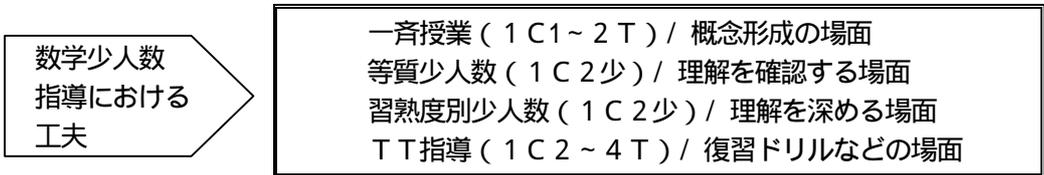
・ 平成15年度の成果及び今後の課題

1、研究の成果

(1) 少人数指導について

指導形態の工夫

昨年度は年間を通して習熟度別少人数を実施してきたが、基礎コースの生徒に向上心が育ちにくい等の問題が見られたため、今年度は学習内容に応じた、より効果的な方法を検討しながら実施した。



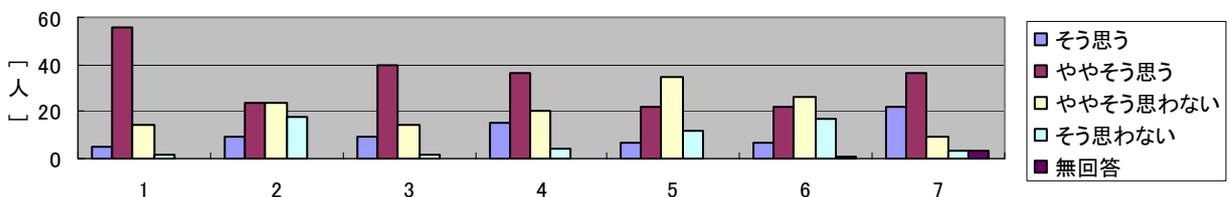
グループ編成の工夫

習熟度別小人数を編成する際には、レディネステストや評価カードの工夫により、生徒が適切なグループを選択するための手立てをとった。数学の例では、自己評価カードの「理解」の欄に毎時間の終末に行われる確認テストの結果をA~D判定で記入し、その数によって生徒が自分の理解度を確認し、次のグループ編成の際に適切な自己判断ができるように工夫している。

指導過程の工夫

習熟度別小人数指導では基本的に同じ内容を学習するが、復習コースでは基礎・基本の徹底のための時間確保を重視し、発展コースでは発展的内容にも挑戦する場面を設定している。特に、復習コースにおいては、数学では復習ドリルに取り組む時間を、英語では教え合いの場を適宜入れながら繰り返し会話等を練習する時間等、基礎・基本の徹底を図る場面を確保するようにしている。3学期以降は小中連携でのTT指導も強化し、更に効果的な指導法を模索している。

【少人数指導に対する意識調査より 抜粋】第2学年 H15.11実施



- 1 勉強の内容がよく分かる
- 2 進んで挙手して答える
- 3 先生や友達の話をよく聞いている
- 4 自力で問題を解決しようとしている
- 5 分からないことを先生に聞きやすい
- 6 コースに分かれることでその教科が好きになっている
- 7 選んだコースは自分にあっている

上は、少人数指導を行っている第2学年での意識調査の結果からの抜粋である。「1 勉強の内容がよく分かる」「3 先生や友達の話をよく聞いている」「4 自力で問題を解決しようとしている」等の項目で、好ましい結果が出ていることがわかる。また、「7 選んだコースは自分にあっている」で、1と2の回答の合計が約8割であることは、自分に合ったコース選択のための手立てが生きていると言えよう。

【H14-15年度CRT結果推移 2002年12月12日実施分 2003年12月5日実施分】

| 数学       |    | H14 通過率(全国)     | H15 通過率(全国) | 全国比の推移     |       |
|----------|----|-----------------|-------------|------------|-------|
| 第2<br>学年 | 観点 | 数学的な見方や考え方      | 36.9(47.7)  | 35.8(38.4) | 77 93 |
|          |    | 数量、図形などについての知・理 | 59.1(67.6)  | 62.9(68.2) | 87 92 |
|          | 領域 | 数量関係            | 32.6(48.1)  | 41.9(49.5) | 68 85 |
| 第3<br>学年 | 観点 | 数学への関心・意欲・態度    | 52.1(59.8)  | 63.5(67.8) | 87 94 |
|          |    | 数学的な見方や考え方      | 30.7(38.4)  | 49.4(57.0) | 80 87 |
|          |    | 数学的な表現・処理       | 59.7(66.5)  | 67.7(71.5) | 90 95 |

上は、昨年度と今年度のCRTの推移をみたものである。少人数指導を実施している第2学年の数学では、大きく落ち込んでいた「数学的な見方や考え方」「数量・図形などについての知識・理解」が上昇傾向を示した。また、「数量関係」でも伸びが見られた。また、TT指導を実施している第3学年では、3観点で伸びが見られた。全国と比較するとまだ工夫が必要であるが、少しずつ学力が確かなものになってきている。

(2) 学区内小学校(鷓住居小学校)との実践連携の推進

滑らかで一貫性のある指導を目指し、鷓住居小学校との連携指導に取り組んでいる。小中の壁を低くし、お互いの指導の特性を理解し協力していくことで、生徒にとってより分かりやすくつまずきにくい学習指導が可能になることを目標としている。

連携教科部会の実施

研究授業・研究会への相互参加

学習アンケートの実施

連携授業の実施 中学の学習への興味関心を高めるための小学校児童への授業等を行ってきた。現在は、数学科における小中教員連携TT指導(各週1回)の実施に向けて準備を進めている。

生活習慣・学習習慣の連携指導

(3) 一斉授業における指導の工夫について

個の理解に応じた指導の工夫

事前事後の学習プリントによる指導助言などで個への対応の充実を図り、人数の多い一斉授業での指導の工夫を目指している。

自己評価カードの工夫

授業の記録の積み上げとなる自己評価カードの利用を全教科で行っている。長期で授業の記録を積み上げていくものや、単元毎に指導を加える場合など、教科や単元の特性に合わせ、様々な形態で実施している。目的として以下の2点をおさえている。

ア 生徒への指導助言を行い、コミュニケーションを図る手段として利用する。

イ 生徒が自分の学習を振り返る場を設定し、自己教育力を育てる。

テスト振り返り用紙

定期テストの際、問題用紙(または解答用紙)にその問いがどの領域からの出題であるかを明記することにより、出題の意図を明確にしたテスト作りを心がけている。テスト実施後には、自分の課題を把握させ、その後の学習に生かさせるために、振り返り用紙による反省を行っている。

(4) 補助的取り組みの充実

朝読書の推進

毎朝10分間の朝読書タイムを実施中。落ち着いた朝の環境を作り出すことにより、授業へのスムーズな移行が可能になった。また、図書室に新聞活用や総合的な学習の時間のコーナーを設置し、情報活用能力の育成のための工夫を行っている。

基礎学力コンクールの実施

基礎学力の向上を目指し、各学年で落ち込みの見られる(特に補強したい)教科で実施している。一問一答式でのテストとし、学年別班対抗コンクール形式をとっている。事前に問題を配布し、目標を明確化することで意欲の向上が図られるように工夫している。また、班内での励まし合い、教え合いにより、学習意欲の高まりも見られる。

### 学習委員会の取組の充実

各担任と連携し、学級の実態の変化を確認しながら家庭学習点検に取り組んでいる。生徒の組織が呼びかけを行うことで、自分たちの問題としての意識が高まることを期待している。また、定期テストの際、学習意欲を高めるため、予想問題を作成させチャレンジさせている。

## 2、今後の課題

### [全体として]

- ・ 評価の方法をさらに工夫していく。特に、来年度の短いスパン（単元や章ごと）での評価の積み上げ方について、到達度テストの利用の仕方などを整備する。
- ・ 「努力を要する」状況の生徒へのきめ細かな援助について、授業毎に明確な指導を徹底するために、授業案の在り方を工夫する。また、生徒自身が到達目標を確実につかむために、学習課題の与え方の工夫も行う。
- ・ 自己評価カードの内容について、各教科で効果的な内容を検討する。また、評価した内容を授業に有効に生かしていくように工夫する。

### [少人数指導について]

- ・ 学級編成のタイミングや期間を、今年度の反省を加えてさらに効果的なものにしていく。具体的には、章末に行っていた習熟度別学級編成を、さらに短いスパンでの復習を充実させるために、節末での実施を行う。
- ・ 授業で学習した内容を持続させるための復習の方法指導も重要視していく必要がある。

### [小・中学校連携について]

- ・ 小・中学校連携を進めていく中で、共通課題として取り組むことをさらに焦点化する。
- ・ 算数・数学 小学校教員の中学校授業への参加、中学校教員の小学校授業への参加を週1のペースで行っている。相互の授業に生かしていくために、効果的な参加の方法について模索していく。
- ・ 理科 中学校教師による小学校児童への連携授業を、小中の橋渡しとして次年度も継続する。
- ・ 国語 読書指導の連携のため、中学校生徒の小学校児童への読み聞かせ等、意欲を育てる工夫を行う。
- ・ 各取組がどのように児童、生徒の学習に生きているか、生かしているかの検証を行う。

### ・ 学力等把握のための学校の取組について

- (1) 年1回の知能検査、NRT、CRTなどの客観的資料の利用
- (2) 単元毎のP1 - P2テストの積み上げ 有効度指数の活用
- (3) レディネステストの工夫

### ・ フロンティアスクールとしての成果の普及について

#### [今年度]

釜石大槌地区学力向上フロンティア推進会議

[1回目] 6/9(月) [2回目] 1/30(金)

- ・ 目的 管内のフロンティアスクールの取組について共通理解を図り、成果と課題を確認する。
- ・ 内容 各校の成果と課題を発表する。

校内学力向上フロンティア推進会議（学校とPTA）

[1回目] 12/10(水) [2回目] 2/25(水)

- ・ 目的 本校の学力向上への取組について、保護者の立場から意見を伺う。
- ・ 内容 習熟度別少人数指導の授業参観、意見交換会

月1回のフリー参観の実施

- ・ 目的 家庭、地域に広く学校を開き、理解と協力を求める。

#### [今後]

- ・ PTA総会、学校通信等でのPTAへの啓発活動
- ・ 家庭、地域への啓発パンフレットの配布 等

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                           |                            |          |             |
|----------------------|---------------------------|----------------------------|----------|-------------|
| 【新規校】                | 15年度からの新規校                | 14年度からの継続校                 |          |             |
| 【学校規模】               | 3学級以下<br>7～9学級<br>13～15学級 | 4～6学級<br>10～12学級<br>16学級以上 |          |             |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>その他              | T.Tによる指導                   |          |             |
| 【研究教科】               | 国語<br>外国語<br>保健体育         | 社会<br>音楽<br>その他            | 数学<br>美術 | 理科<br>技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |                           | 有                          | 無        |             |